

分析結果報告書〔2〕 1/3

1. 2 模擬排水試料 (BOD)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(ガイド25) 3. MLAP 4. (上記1~3を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者 氏名	
経験年数(年)	()年
実績(年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<分析結果>

1回目(mg/L) 注1~3)	() mg/L
2回目(mg/L) 注1~3)	() mg/L
3回目(mg/L) 注1~3)	() mg/L
Z-スコアの報告書資料編への記載 注4)	1. 希望する 2. 希望しない

注1) 本調査においては、下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。

注2) 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。

注4) 分析結果を報告した機関が20に満たない際は、Z-スコアの報告書資料編への記載を行わない場合がある。

<分析方法等>

試料受取日 注)	()
分析開始日 注)	()
分析終了日 注)	()
分析方法	1. JIS K 0102 の21の方法(手分析) 2. JIS K 0102 の21の方法(自動分析) 3. その他()
自動測定装置のメーカー名	()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他()

注) 半角で記入する 例: 2020/7/28

<希釈試料の調製に用いた希釈水>

植種の有無(希釈水の種類等)	1. 植種あり(植種希釈水を使用) 2. 植種なし(希釈水を使用) 3. その他()
植種希釈水を使用した場合の調製に用いた植種液の種類	1. 下水(家庭下水、下水排水(処理水)又はその上澄み液等) 2. 排水処理でのばつき槽水又はその上澄み液等 3. 河川水 4. 湖沼水 5. 土壌抽出液(土壌と水) 6. 市販品の植種菌剤を用いて調製 7. その他()
市販品の植種菌剤を用いた植種液の調製	
植種菌剤の種類	1. BI-CHEM TM BOD Seed 2. POLYSEED-US 3. その他()
使用した水	1. 希釈水 2. 水 3. その他()
植種菌剤1カプセルに対する水の量(mL)	() mL
混合液のばっ気・攪はん等	1. ばっ気又は攪はんを行った(時間) 2. その他の処理を行った() 3. 何も行わなかった
植種希釈水の調製までの時間 その他、植種希釈水の調製にあたって留意した点	ばっ気・攪はん等の処理後の時間(時間) ()
植種液のBOD 注1)	1. () BOD-mg/L 2. 測定していない
植種希釈水の調製(希釈水への植種液の添加量)	調製した植種希釈水1000 mLあたりの植種液の量() mL
植種希釈水の活性 注2)	1. 測定した() BOD-mg/L 2. 測定していない

注1) 測定値を記入する。

注2) JISに規定されているグルコース-グルタミン酸混合標準液(BOD 220±10 mg/L)の測定値を記入する。

分析結果報告書〔2〕 2/3

<試料の前処理>

前処理	1. 行わない 2. 行う その方法 ()
-----	---------------------------

<段階的な希釈試料の調製>

調製した希釈試料の段階の数	()
希釈の方法	1. メスシリンダー（有栓形）を使用して希釈 2. メスフラスコ（全量フラスコ）を使用して希釈 3. 培養瓶で直接希釈 4. その他の方法 ()
硝化抑制	1. 行わない 2. 行う その方法 ()

<培養の方法>

培養瓶の容量 (mL) 注)	() mL
恒温 (20±1℃) の方法	1. 恒温器 (恒温室) 2. 恒温水槽 3. その他 ()

注) 異なった容量の瓶を用いた場合には、概略の容量を記入する (例えば、103、101、102 mL……では、100 mL とする)。

<溶存酸素 (DO) の測定>

測定方法	1. よう素滴定法 (ウインクラー・アジ化ナトリウム変法) 2. ミラー変法 3. 隔膜電極法 4. 光学式センサ法 5. その他 その方法 ()
3. 又は4. の方法を使用した場合について	
飽和溶存酸素の表の修正および気圧 (高度) の導入に係る補正等	1. 実施している その方法 () 2. 実施していない 3. その他 ()
塩分補正	1. 実施している (その方法: 11. 自動補正 12. 別途塩分を測定後、補正) 2. 実施していない
試料測定前の機器校正	1. 実施している (その方法: 11. 空気校正 12. 空気飽和水校正 13. 亜硫酸ナトリウム溶液校正 14. 12 及び 13 の両方 15. その他の方法 ()) 2. 実施していない

<溶存酸素 (DO) の測定: 滴定法 (よう素滴定法又はミラー変法) > (1 回目の結果を記入する)

希釈段階 注1)	P 注2)	15 分後の溶存酸素の測定		5 日後の溶存酸素の測定	
		試料量 (mL)	滴定量 (mL) 注3)	試料量 (mL)	滴定量 (mL) 注3)
1					
2					
3					
4					
5					

注1) 前記<段階的な希釈試料の調製>で調製した段階的な希釈試料ごとに記入する(5段階を超える場合には5段階まで記入する)

注2) Pは希釈試料中の試料の占める割合(試料/希釈試料)を示す(P値が大きい順に記入する)。例えば、3段階希釈では、

1段階: P=0.04 (25倍希釈)、2段階: P=0.02 (50倍希釈)、3段階: P=0.01 (100倍希釈)の順のように記入する。

注3) よう素滴定法では25 mmol/L チオ硫酸ナトリウム溶液の滴定量 (mL)、ミラー変法では硫酸アンモニウム鉄(II) 溶液(硫酸5mL を水100 mL に加え、これに硫酸アンモニウム鉄(II) 六水和物5.4g を溶かし水を加えて1L としたもの)の滴定量 (mL) を記入する。

分析結果報告書〔2〕 3/3

<測定記録（1回目）>

希釈段階 注1)	P 注2)	溶存酸素(mg/L)		溶存酸素の消費率(%) 注3)	BODの値 注4)
		D1 (15分後の溶存酸素)	D2 (5日後の溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

<測定記録（2回目）>

希釈段階 注1)	P 注2)	溶存酸素(mg/L)		溶存酸素の消費率(%) 注3)	BODの値 注4)
		D1 (15分後の溶存酸素)	D2 (5日後の溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

<測定記録（3回目）>

希釈段階 注1)	P 注2)	溶存酸素(mg/L)		溶存酸素の消費率(%) 注3)	BODの値 注4)
		D1 (15分後の溶存酸素)	D2 (5日後の溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

注1)前記<段階的な希釈試料の調製>で調製した段階的な希釈試料ごとに記入する(5段階を超える場合には5段階まで記入する)。

注2)Pは希釈試料中の試料の占める割合(試料/希釈試料)を示す(P値が大きい順に記入する)。例えば、3段階希釈では、

1段階:P=0.04(25倍希釈)、2段階:P=0.02(50倍希釈)、3段階:P=0.01(100倍希釈)の順のように記入する。

注3)溶存酸素の消費率(%)は(D1-D2)/D1×100として算出する。

注4)BODの算出に用いた希釈試料(希釈段階)に該当する欄に値を記入し、他は空欄とする。

<試料の保存状況>

保存方法	1. 冷蔵所保存 3. その他()	2. 保存しない(直ちに分析)
試料の保存処理	1. 行った その方法()	2. 行っていない
保存時間(時間)注)	()時間	
保存温度(℃)	約()℃	

注)時間単位で整数を記入する(例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--